＜長崎県五島市＞

【統合困難な地域における教育環境の充実の取組モデル】
〇しま留学の受け入れと独自教科の設定により教育の高度化を図った例

１．市町村の概要

◆人　口：35,501 人（平成 30 年７月現在）
◆小学校：16 校，児童数 1,672 人　　◆中学校：11 校，生徒数 851 人

※学校数，児童生徒数は平成 30 年 5 月 1 日現在

◆市町村全体の学校の統合・存続の状況

本市は，令和元年度から玉之浦小学校，平成小学校が統合して玉之浦小学校，三井楽小学校と浜窄小学校が統合して三井楽小学校となった。そのため，市内の小学校が２校減少し，市内小中学校は合計 25 校となった。二次離島も多く，地理的条件から今後の統合については難しい状況である。

２．研究タイトルと研究課題

◆研究タイトル

極小規模小中併設校の特色を生かした生きる力の育成

◆研究課題

1　少人数であることを最大限に生かした教育活動に関する研究
　① 特色ある教育活動の実践【魅力ある学校づくり】
　② 英語で自慢発信【小学校１年生からの英語教育】
　③ 学校間ネットワーク構築【交流学習・合同行事・遠隔授業実施】
2　児童生徒数の増加や児童生徒集団の多様性確保
　① 「五島市しま留学生受入事業」の推進
　② 現地見学に対するサポート体制の充実
　③ 留学生体験活動の企画・運営

３．調査研究対象校の状況

◆調査研究対象校　　児童生徒数は平成30年５月１日現在

五島市立久賀小学校（２学級，７人）
五島市立久賀中学校（２学級，10人）

◆調査研究対象校を存続することとした背景・理由

・二次離島にある学校は，地理的条件から学校統廃合が難しい。
・一人一人の実態に応じたきめ細やかな学習指導や生活指導が行われるなど，極小規模校のメリットを生かした教育が実践されている。

◆調査研究対象校における地域との連携の状況

・学校通信「碧海のふところ」を発行し，保護者及び地域の方へ積極的に情報を発信している。
・人材バンクを利用して，授業に地域のゲストティーチャーを招聘し活用する。
・久賀島「海の会」，久賀島「島民運動会」，久賀「フェスティバル」などの活動を通して，学校と保護者，地域との連携を図っている。

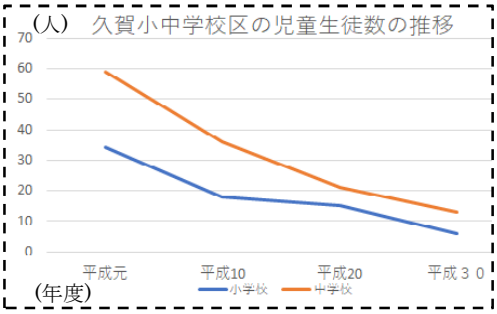
◆児童生徒数を確保するための工夫

・五島市しま留学生受入事業の推進・充実を図っている。

◆調査研究対象校の位置

調査対象地域は，長崎県の五島列島久賀島に位置しており，人口は約300人。久賀小中学校は，島の中央に位置し，田の浦港から車で５分。

◆対象校の児童生徒数の推移



４．本調査研究において取り組んだ内容

◆小規模校のメリットを最大化する方策

（１）教育課程特例校の申請を行って，小学校１年生からの英語教育を実施し，英語によるコミュニケーション力の育成を図った。

①英語科と総合的な学習の時間との関連を図り，中学生による英語で久賀をガイドする英語劇（久賀フェスティバル）の台本作りや劇の練習などの活動の充実を図った。久賀フェスティバルは年１回毎年 11 月に実施している。

②中学校英語教員による小学校への乗り入れ授業を実施した。週１時間以上年 50 時間実施。中１ギャップを解消し，指導の一体化を図った。

③ＡＬＴを週１回以上派遣し，すべての学年の授業及び給食，昼休み，放課後において密な交流ができている。

◆小規模校のデメリットを最小化する方策

（２）五島市しま留学生受入事業の推進・充実を図った。

①五島市立久賀小中学校に転学を希望する児童生徒に対し，保護者（しま親）の協力を得て受入れを実施した。

ア　しま留学連絡協議会への委託

・留学生及びしま親との連絡調整・相談・支援活動

・週休日や長期休業における留学生体験活動の企画・運営」，「留学希望者の現地見学に対する支援活動」等を委託している。

５．研究の成果と今後の取組

（１）　少人数だからこそ授業中の英語でのやりとりの機会が多く，ＡＬＴとのかかわりが密になり，英語力の向上につながっている。また、五島市は，外国人とふれ合うことがないため，ＡＬＴなどの外国人に英語で話しかけようとする児童が極端に少ない傾向にあるが，毎年，６年生を対象に五島市全体で受検している「英検ジュニア」の意識調査結果が示すとおり，久賀小学校の児童は，英語を使ってコミュニケーションを図ることを楽しんでいることが顕著である。

【調査項目】

①　英語教育の充実により，英語で交流することに抵抗を示すことなく，英語を話すことが楽しい。（市：85％－久賀：100％）」

②英語で話しかけている。（市：47％－久賀100％）」

（２）豊かな自然の中で様々な体験活動を行うことによって，心身共に健康な児童生徒の育成を図った。さらに，他地域から児童生徒を受け入れることによって，学校の存続，児童生徒の社会性の扶養につなげた。

【しま留学生受入れの推移】　H28年度３人，H29年度５人，H30年度11人，Ｒ元年度11人

６．学校の存続に課題を抱える自治体へのメッセージ

（１）　英語教育について

極小規模校で小中併設校であるからこそ可能な取組がある。乗り入れ授業では，小中の指導の一体化を図ることができる。また，少人数のデメリットを克服するためには，遠隔授業の導入が大変有効である。

小６英語科（乗り入れ授業）

（２）　しま留学について

留学生が転入してくることで，地元の児童生徒の知識やものの考え方が広がり，社会性を育むことができる。学校存続に向け有効である。